



「あ、あの時の先生だ。」私は市長の挨拶を聞いて、心の中で確信した。

学会の合同懇親会が始まった。学会長の挨拶に続いて、学会長の大学の学長が挨拶された。引き続き開催地松本の市長さんの挨拶が続いた。「第43回糖尿病学の進歩合同懇親会の開催にあたり、学会開催地の市長として、一言御挨拶を申し上げます。……松本市は超少子高齢型人口減少社会における持続可能なまちづくりを進めるため、『健康寿命延伸都

## プロジェクトX 再び

情報広報部 橋本洋一

市・松本』の創造をめざしております。そのために、医療に携わる方と行政が常に緊密な連携をとり、保健・医療・福祉が総合的かつ広範に提供できるよう、必要な施策を展開しております。……学長先生は私の先輩でして、私もかつて内分泌の外科医をしておりまして……」

1986年4月26日、旧ソ連ウクライナのチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故が起きた。事故後、子供達に甲状腺癌が多発し、

貧しい医療環境の中で行われた旧式手術により子供達の頸に一生消えない傷跡……『チェルノブイリの傷』が残った。その事実を知って、一人の日本人医師が立ち上がった。信州大学第2外科の助教授の職を辞して、ベラルーシ共和国の首都ミンスクに飛んだ。彼は

ミンスクの国立甲状腺癌センターで外国人医師としてただ一人治療にあたり、数多くの子供達の甲状腺癌手術をてがけ、現場の若い医師達に遅くまで自分のアパートで甲状腺癌の手術法を伝授した菅谷昭医師その人であった。彼は甲状腺癌の世界的権威であった。その菅

### 谷医師が松本市長として目の前で挨拶をされていた。

挨拶が終わった。私は無意識のうちに市長のテールに駆けつけた。「市長さん、NHKのプロジェクトXに出られましたね。たしか、お父様が開業医をされていて、休む間も無く往診され、遊んでもらった記憶がないとおっしゃっていましたね。」名刺交換をしながら「先生、よく覚えておられましたね。」と市長が応えてくれた。話は弾んだ。帰りの汽車

に乗り遅れまいと飛び乗ったタクシーの運転手さんに市長さんのことを言うと、「この松本はおかげさまで医療と福祉は充実しております。」と地元の声が返ってきた。

3月5日、給付金法が成立した。本当に生活に困窮している人々に支給すべきであるとか、今回の給付金は8割が貯蓄にまわり、消費につながらないとか、さまざまの批判がある中で衆議院での再可決であった。これを受けて、松本市の菅谷市長は市独自の手法でこの給付金の寄付金を集め、寄付金で失業者を支援しようとする案を提示した。日本国中で何人の医師が市長に就任しているか定かではないが、ベラルーシで行った医療活動同様、置かれた環境の中で最善を尽くす『プロジェクトX 魂』は健在であった。タクシーの運転手さんの言葉の中に、地域社会に根付いた活動をしている誠実な自治体の長の姿をみる事ができた。『プロジェクトX 再び』と思わず、口の中でつぶやいた。

参考DVD…プロジェクトX NHK DVD  
チェルノブイリの傷 奇跡のメス